



令和 8 年 3 月 1 0 日
教育庁企画管理部教育総務課

令和7年度「教職員の働き方改革に係る意識等調査」の結果について【概要】

県教育委員会では、学校における業務改善の推進に向けたデータの取得と教職員の働き方の意識改革へとつなげることを目的に、「教職員の働き方改革に係る意識等調査」を行っています。

この度、令和7年12月に実施した調査結果が取りまとめられましたので、その概要をお知らせします。

1 調査方法等

(1) 調査時期

令和7年12月現在の状況

(2) 調査対象校

スクール・サポート・スタッフもしくは副校長・教頭マネジメント支援員を配置している、県内の公立小学校107校、中学校71校、高等学校15校、特別支援学校34校を抽出し、合計227校で実施。

(3) 調査対象教職員

調査対象校の副校長、教頭、主幹教諭、教諭、臨時的任用教諭、養護教諭、栄養教諭、事務職員(※有効回答数1,847名)

(4) 調査の実施方法

各学校から県教育委員会へ、「勤務時間の意識」「働きやすさ」「働きがい」「子どもに向き合う時間の確保」「負担感」等について設問形式で、Web入力により直接回答する。

2 調査結果の概要

- 「勤務時間の意識」、「働きやすさ」、「働きがい」については、全体で肯定的な評価の割合が85%を超えている。
- 一方、職種や学校種別（データ編P2～）で見ると、以下の職種等で肯定的な評価の割合が相対的に低くなっているため、調査研究が必要である。
 - ・「高等学校」種別の「働きがい」が70%台と全体より低い。
 - ・「栄養教諭」と「事務職員」職種の「働きがい」が70%台と全体より低い。
- 「勤務時間の意識」については、昨年度から19ポイント改善し、肯定的な評価の割合が90%となっているが、時間外在校等時間別（データ編P2～）で見ると、当該時間が長くなるほど、勤務時間の意識が低下しているため、啓発が必要である。
- 「子供と向き合う時間の確保」については、全体で肯定的な評価の割合が62%と、十分と考えていないことが分かる。データ編P3に記載のとおり、教職員は、子供に向き合うことに一番働きがいを感じているため、向き合うための時間と質の確保ができるような手立てが必要と考えられる。

全体結果（4段階評価で上から2段階の肯定的評価の割合）

勤務時間を意識して勤務することができていますか	現在の職場を働きやすい職場と感じていますか	現在、仕事に働きがいを感じていますか	「子供（児童生徒）と向き合う時間」を確保できていますか
90%	88%	90%	62%